



○鳥獣被害防止総合対策事業における整備事業の予算について

今年度の整備交付金は、令和3年度予算、令和2年度当初予算(繰越)、令和2年度補正予算(繰越)の三つに分かれて示されています。要望に対する充足率は全体で約82%でした。

整備事業を進めて行くに当たり、以下の点にご注意ください。

- ・令和3年度予算のうち、中山間地域農業ルネッサンス事業関係優先枠として示されている金額は中山間での事業に優先的に充当
- ・令和2年度補正予算(繰越)の対象地域は、柵の整備によって受益農地での生産コストを10%低減することが要件

なお整備事業に限らず、地区間もしくは協議会の間での過不足を調整して予算を無駄なく活用するために、入札はできるだけ早く済ませてください。できるだけ早い時期に事業実施状況調査を実施して執行残見込みの情報を整理し、調整を図りたいと考えています。

○整備事業に係る模様替え・移転等を実施する場合

遅くとも着工の数日前までには、県から国に届出の手続きを完了させる必要がありますので、約1か月前までには県へ届け出ていただくようお願いします。

鳥獣トピックス ニホンジカはワイヤーメッシュ柵を跳び越える？

愛知県内では、2000年代の初め頃から鳥獣の侵入を防ぐためのワイヤーメッシュ柵の整備が始まりました。最初のうちはイノシシを想定し、1~1.2mの高さが主流でした。2011年頃から、ニホンジカ対策も兼ねた高さ1.8~2mの仕様が多くなりました。

現場では、「イノシシ用の(1.2m程度の高さの)柵ではシカが跳んで入る」という声がしばしば聞かれました。シカの跳躍力ならば高さ1mの、いや高さ2mの柵であっても飛び越えることは難しくないでしょう。しかし、「柵の上を跳び越える」という確固たる証拠は得られていませんでした。飛び越えはリスクを伴うので、猟犬に追われるなどやむにやまれぬ事情でもない限り、そのようなリスクは冒さないのではないかという見方も一方ではあったのです。

結論として、シカは高さ1m程度の柵はいともたやすく跳び越えることが判明しました。2019年以降、愛知県職員が野外に設置した自動撮影カメラで、跳び越える瞬間が相次いで撮影されたのです(右上の写真はその1例)。いずれも、助走もせずにとめらいなく跳び越えていました。

ここからは推測ですが、跳び越えが撮影された箇所は「お楽しみに向かうけもの道」ではないかと考えられます。だとすれば、跳び越えた先のシカにとって魅力的な何かを解消しない限り、仮に柵をかき上げしても跳び越えを試みるかも知れません。

